

報告

2010 年「天文・宇宙が学べる大学」 中国四国地区合同進学説明会の報告

松村雅文（香川大学教育学部）、

小田 玄（修道中高等学校）、

畠 浩二（岡山商科大学附属高校）、

加藤一孝（広島市こども文化科学館）、

山根弘也（呉市かがり天体観測館）、

川端弘治（広島大学宇宙科学センター）

1. はじめに

中国四国地区での「天文・宇宙が学べる大学」合同進学説明会は、毎年行われており、今年で3回目になる。この説明会は、もともと、大島修さんと畠浩二さんの発案によるものである[1]。中国四国地区では、数年来、天文や宇宙を学べる大学、学部、研究室が急速に増えている。しかし、高校によっては、天文や宇宙に興味がある高校生に、天文・宇宙が学べる大学があることが十分に伝わっているとはいえない状況があるようだ。そこで、大学の教員が、直接、高校生に語りかける機会を作ろう、というものであった。

ここでは、2010 年 11 月 28 日に、広島市こども文化科学館（図 1）で行われた“2010 年「天文・宇宙が学べる大学」中国四国地区合同進学説明会”の状況を報告する。



図 1 広島市こども文化科学館

広島市の中央にあり、旧・広島市民球場のすぐ隣である。かつての広島カープの野球中継では、プラネタリウムのドームが良く映っていた。

なお、この説明会の 1 週間前の 11 月 21 日には、“関東版”の説明会が日本科学未来館で行われた。これら二つの説明会の報告は、別稿[2]でも報告されており、本稿の内容と部分的に重複している。

2. これまでの経緯

2.1 過去 2 回の説明会

第 1 回の説明会は、2 年前の 2008 年 6 月 22 日（日）に岡山大学で行われ、計 76 人（内高校生・受験生 41 人）が参加し、盛況であった[1]。

第 2 回は、2009 年 7 月 4 日（土）に、今回と同様、広島市こども文化科学館で開かれたが、参加者が非常に少ない結果に終わった。後から聞いてみると、高校生が非常に出席しにくい日程になっていたことが分かった。この当日は、土曜日だったが、私立高校の場合、高校によっては土曜も授業をおこなっているそうである。また定期試験の前という高校も多かったようだ。

2.2 今年の説明会の準備

第 1 回の準備のために、広島大学の川端弘治さんにより、メーリングリストが開設された。今回の準備のための連絡も、このメーリングリストを利用させていただいた。

（1）日程の設定

第 2 回の状況を考え、今回は、できるだけ高校生が参加しやすい日を選ぶことにした。これは、筆者の一人である松村には分らない

いので、この稿の共著でもある小田さんや加藤さんに可能性を検討していただいて候補をあげてもらい、関係者の意見を聞いて日程を決めた。しかし、それでも、山口県の高校の定期試験と重なっていたとの話を後で聞いた。誰にとっても都合が良い日程は、ありえないのかもしれないが、できるだけ不都合を少なくする努力は必要なのだろう。また当初は、従来どおり 6 月頃の日程を想定したが、調整できず、結局 11 月になった。この時期は、高校 3 年生にとっては遅すぎる。結果的に 2 年生または 1 年生あたりを対象にした会になった。

(2) 広報等について

期日が決まり、山根弘也さんがポスターを作成してくれた(図 2)。また、松村が、この説明会の簡単なホームページを開設した[5]。

さらに、「月刊星ナビ」11 月号では、「耳より情報」のコラムとして紹介していただいた[6]。朝日新聞(2010 年 11 月 19 日付け)の科学面でも、関東版の説明会とともに、紹介していただいた[7]。

(3) ポスターセッション

関東版の説明会と近い時期に開催することになったのは、偶然である。しかし、関東版の世話人の野澤恵さん(茨城大)から、「協力できる部分は協力しましょう」との話があり、具体的にはポスターを相互で利用しよう、ということになった。第 1 回のときの“個別懇談”は、椅子と机でブースを作って行ったこともあり、実のところ、ポスターセッションはあまり想定していなかった。しかし、関西地区の説明会では、ポスターセッションが好評だった[3][4]ことをも参考にし、急遽、ポスターセッションを行うことにした。

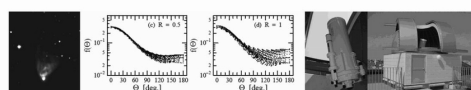
(4) 参加大学についての考え方の変更

実は、今回の説明会では、参加大学についての考え方を若干修正した。大きな大学の天文学科等のことは、高校生もある程度は知っ

ているだろうと思っていたが、高校生たちは、大きな大学のことも必ずしも知っているわけではないことが分かってきたからである。従来は、中国四国地区で行うことの意義を考え、この地区以外の大学の参加は遠慮していた。この考え方は尊重しつつも、今回は、中国四国以外でも参加の希望があれば参加していただくことにした。

主催:「天文・宇宙が学べる大学」中国四国地区合同進学説明会実行委員会
天文教育普及研究会中国四国支部
共催:広島市こども文化科学館

「天文・宇宙が学べる大学」 中国四国地区合同進学説明会2010



日時: 2010年11月28日(日) 13時30分~17時00分
場所: 広島市こども文化科学館(広島市中区基町5-83)
内容: 天文や宇宙を学びたい高校生を対象とした進学説明会です。各大学の教員がそれぞれの大学の特色や就職と進学の状況等について紹介します。また、最新のトピックについての講演も予定しています。
対象: 高校生(一般の方の参加も大歓迎です。)
参加費: 無料(申込不要)



進学説明会の様子(2008年6月22日)

参加大学: 広島大学、山口大学、岡山大学、岡山理科大学、愛媛大学、高知工科大学、徳島大学、香川大学、大阪教育大学、会津大学など

連絡先: 加藤一孝(082-222-5346 kato@pyonta.city.hiroshima.jp) 広島市こども文化科学館
松村雅文(087-832-1466 matsu@ed.kagawa-u.ac.jp) 香川大学教育学部
URL: <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~matsu/setumeikai.html>

図 2 説明会のポスター(白黒版)

3. 当日の様子

3.1 配布資料

主催者からは、(1) プログラム、(2) アンケート、(3) 「Kawaijuku Guideline」と言う雑誌(河合塾発行)の2010年11月号の別刷り(「シリーズ: 注目の学部・学科」天文学)[8]を配布した。この別刷り[8]は、東京大学の岡村定矩さんからお送りいただいたもので、関東版の説明会でも配られたそうである。また、プログラムの裏には、愛知教育大学の沢

武文さんの「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学」のホームページ[9]を紹介させていただいた。

3.2 会場の準備

当日の午前中に、会場の準備を行った。修道高校の生徒さんたちに協力をいただき、ポスターを張るボードの準備や、関東版の説明会から来た約 30 枚のポスターを張っていただくなど、大いに活躍してもらった。実は、関東版のポスターを配置できるのかどうか不安であったが、加藤さんの発案で、会場となった会議室の外の壁に張ってもらった。参加者には、休憩時間に見てもらったが、一般の科学館のお客さんにも、気がねなく、見ていただけたはずである。

3.3 記念講演

当日の記念講演については、メーリングリスト上でも色々議論があったが、結局、今たいへん注目されている“はやぶさ”の話を、高知工科大学の山本真行さんに行っていただくことにした。

3.4 プログラム

当日のプログラムは次の通りであった：

第1部 講演会： 紹介！天文トピックス

(司会：松村雅文)

13:30～13:35 あいさつ (加藤一孝)

13:35～14:00 “はやぶさ帰還の地上観測報告”

(高知工科大学 山本真行)

第2部 各大学紹介 (司会：山根弘也)

14:10～14:15 趣旨説明 (松村雅文)

14:15～15:30 各大学の紹介

九州大学, 山口大学, 広島大学, 岡山大学, 岡山理科大学, 愛媛大学, 高知工科大学, 香川大学, 徳島大学, 大阪教育大学, 会津大学

基本的に西から東への順番で、各大学 7 分程度のプレゼンテーションを行った。九州大学は飛び入りであった。

第3部 ポスターセッション：個別懇談

15:40～17:00 (終了)



図3 会場の様子 (加藤一孝さんの挨拶)

3.5 参加者数

当日の参加者は、高校生 21 名、学校の先生 7 名、一般 2 名の計 30 名であり、関係者 13 名 (大学教員 11 名、科学館スタッフ 2 名) と、NHK の取材 1 名を加えると総計で 44 名であった。いずれのセッションでも、参加者の皆さんは大変熱心であった (図 3、図 4)。

3.6 NHK による報道

当日、夕方 6 時 45 分からの広島県での NHK テレビのローカルニュースで、説明会の様子が報道された。山本真行さんの記念講演と、山口大学の藤沢健太さんのプレゼンの様子、高校生のインタビューが放映された。

また、当日の朝の NHK ラジオでも、その日行われるイベントの一つとして紹介されたということであった。

4. 今後について

今後については、当日を振り返り、関係者のご意見を聞きながら考えることになる。



図 4 ポスターセッションの 1 場面

回収されたアンケートの数は 12 であり、高校生の参加者数 (21) を考えると、まずまずの数と言えるだろう。その概要は付録としてこの稿の最後につけた。12 人中の 10 名が、進路を考えると参考にすると答え、11 名が他の人にも薦めたいと答えるなど、概ね好意的な反応であった。一方で、1 大学 7 分のプレゼンテーションを続けて行ったためか、「大学の名前が覚えられない」「時間が短い」といった回答もあった。全体を 3 部に分けて、その間を休憩にするなどの工夫はしたつもりである。しかし、高校生を想定した場合、どのくらいの発表時間を取り、休憩のタイミングをどうするのか等、プログラム作成についての課題はまだ残されているようである。

関係者の何人かにご意見をきいたところ、すぐに目に見えた効果はないかもしれないが、説明会を維持していくことは重要だろう、という意見が多く聞かれた。「成果は、じわーっと利いてきますよ」という加藤さんの話が印象的であった。しかし、具体的に、来年の説明会を中国四国地区のどこで行うか等については、この稿の執筆時点では明確ではない。今後、メーリングリスト等で議論していくことになる。

謝 辞

本文中にもお名前をあげさせていただいたように、多くの方々のご協力により今回の説明会を開催することができました。お忙しいところを山本真行さんに講演いただき、多くの大学教員の方々に参加していただきました。また、本会の会員の方々も会場に見えられ、大変心強く感じました。感謝を申し上げます。

文 献

- [1] 昌浩二 (2008) 「“天文・宇宙系大学中四国地区合同進学説明会” の開催と意義」, 第 22 回天文教育研究会・2008 年天文教育普及研究会年会集録, 35.
- [2] 野澤恵ら (2011) 「宇宙を学べる大学合同説明会(第一回関東版及び第三回中国四国地区)」天文月報, 2011 年 3 月号, 印刷中.
- [3] 福江純ほか (2010) 「第 3 回 “宇宙 (天文) を学べる大学” 合同進学説明会 出張オープンキャンパス: 研究室ってどんなところ? 研究者ってどんな人?」 天文月報, 103: 701.
- [4] 成田直 (2010) 「第 3 回 “宇宙 (天文) を学べる大学” 合同進学説明会の報告: 研究室ってどんなところ? 研究者ってどんな人?」 天文教育, 22 (5): 46.
- [5] 2010 年「天文・宇宙が学べる大学」中国四国地区合同進学説明会ホームページ <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~matsu/setumeikai.html>
- [6] 月刊星ナビ 2010 年 11 月号, p.61.
- [7] 朝日新聞 2010 年 11 月 19 日, 科学面.
- [8] Kawaijuku Guideline 2010 年 11 月号, p.52.
- [9] 宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学 2009 年度版 トップページ <http://phyas.aichi-edu.ac.jp/~sawa/2009.html>

付 録： アンケートの結果の概要

当日行ったアンケートで、回収された数は12であった（高校生の参加者数は21名）。主な結果は、次のとおりである。

Q. この合同進学会をどのようにして知りましたか？（先生から、友人から、家族から、学校で、天文雑誌から、インターネットで、ポスターをみて、その他 からの選択）

→ 先生から（5）、家族から（1）、
学校で（4）、その他（科学館スタッフ
から直接の案内で）（2）

Q. 進路決定の参考になりそうですか？

→ はい（10） いいえ（2）

Q. 今回のような説明会があれば他の人にも薦めたいですか？

→ はい（11） いいえ（1）

Q. 説明会で分かりやすかった点、分かりにくかった点はどこですか？

（分かりやすかった点）

- ・絵や写真があった。 ・進路がわかった。
- ・興味のある内容の説明だった。
- ・大学により様々な研究分野、アピールポイントがあることが分かった。（3）
- ・ニュースでは聞けないイトカワやはやぶさの話を知ることができた。

（分かりにくかった点）

- ・専門分野の説明の仕方によって分かりやすさが変わった。
- ・大学の名前が覚えられない。
- ・学科の説明等が分かりにくかった。

Q. 今回の合同進学説明会の感想は？

- ・色々ためになりました。
- ・工学系が少なかった。
- ・時間が短い。
- ・良かったと思います。
- ・進路を考えるための参考になりました。
- ・宇宙の最先端のことを学ぶためには、中国四国を出ないといけないと思っていたけれど、中国四国でも最先端の研究をしているところがたくさんあることが分かって、よかった。
- ・天文研究、天体観測の参考になった。
- ・宇宙関係に進学したいという気持ちが強くなりました。
- ・同じようなことを学びたいと思っている人がいることがわかり、良かった。
- ・進路選択の助けになりそうです。来年もあれば来たいと思います。
- ・普段は聞くことができない話が聞けてとても良かったです。元々、宇宙には興味があったけど、もっと宇宙について知りたいと思いました。
- ・「大学は人である」というコメントが一番頭に残った。

Q. よろしければ、学年は？

中2（3）、高1（5）、高2（3）、高3（1）

松村雅文